

第 3 章

検 証 編

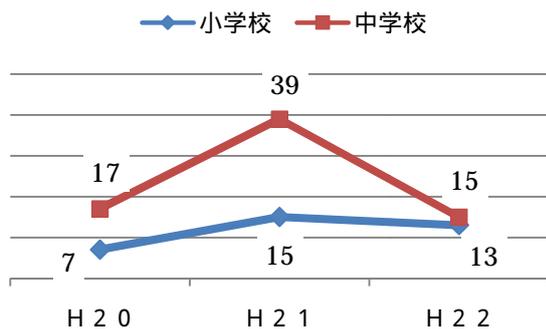
第3章では、平成23年度「中1ギャップ問題未然防止事業」の成果と課題について掲載します。

指定校区におけるいじめ・不登校の状況

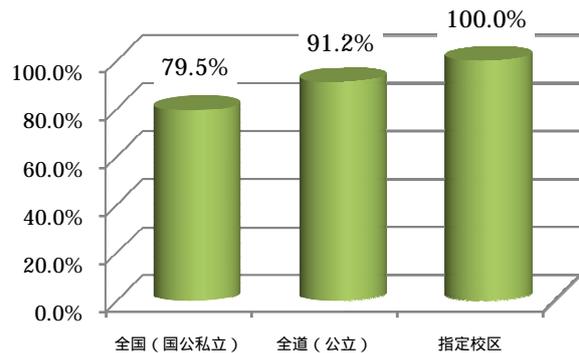
本事業の指定校におけるいじめの認知件数は、本事業を開始した平成22年度において、小中学校ともに減少し、特に中学校においては、半数以下となっています。

また、認知したすべてのいじめが解消されています。

指定校区におけるいじめの認知件数の推移



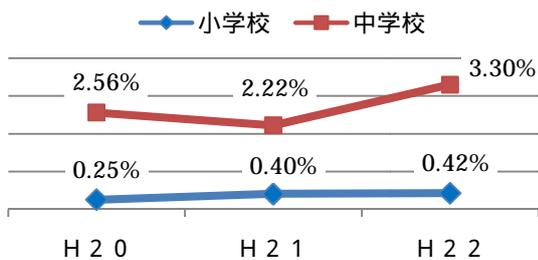
平成22年度の指定校区におけるいじめの解消率（小・中）



本事業の指定校における不登校の出現率は、小学校では横ばい、中学校では本事業を開始した平成22年度において、前年より増加しています。

また、指定校区の不登校の解消率は、小学校、中学校ともに全国、全道の解消率を上回っています。

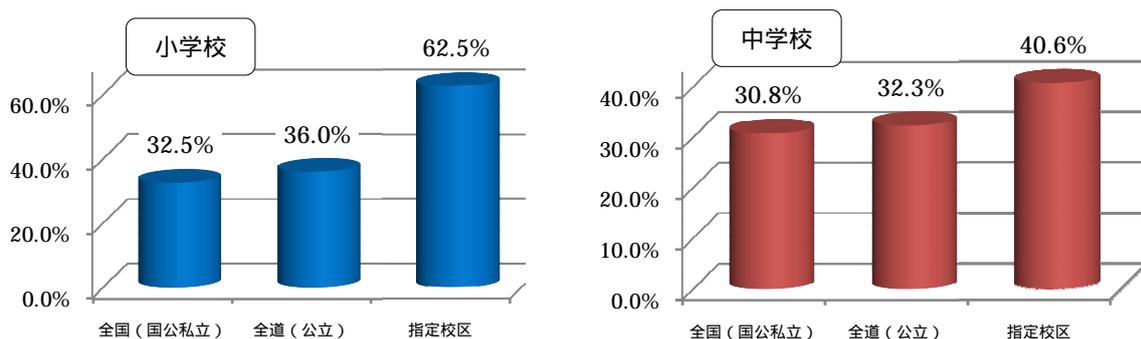
指定校区における不登校の出現率の推移



事業を開始した平成22年度においては、各指定校が「中1ギャップ解消プラン」を作成し、校種間の連携や児童生徒の交流活動等の取組を開始した段階であるため、不登校の減少には至っていません。

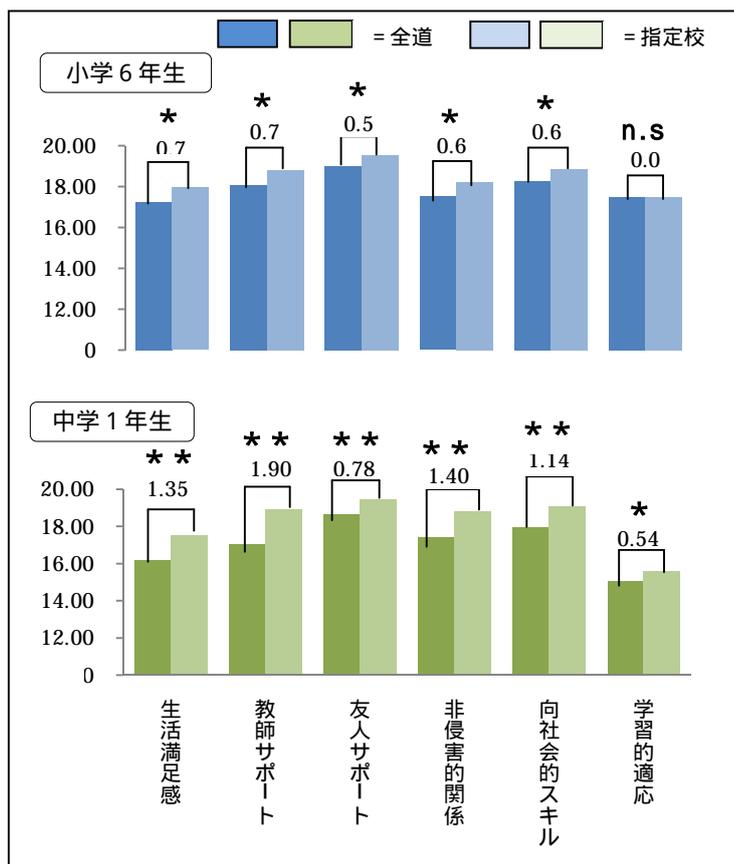
しかし、生活アンケートを活用した学級適応感の把握などを通して、児童生徒一人一人に応じたきめ細かな対応を進めたことが、いじめの認知件数の減少、すべてのいじめの解消、高い不登校の解消率につながっていると推察できます。

平成22年度の指定校区における不登校の解消率



「アセス」による児童生徒の適応感の把握

本事業の指定校では、「6領域学校環境適応感尺度(「アセス」:ASSESS:Adaptation Scale for School Environments on Six Spheres 以下「アセス」と言う)を活用し、児童生徒の生活への満足感や教師、友人との人間関係等の状況を客観的に把握し、その結果を一人一人へのきめ細やかな指導に生かしています。



平成23年度の指定校の結果は、小6、中1ともに全道(平成22年10月調査)と比べて高くなっており、特に、中1においては、「教師サポート」、「非侵害的關係」、「生活満足感」が高くなっています。

これは、教師が生徒の内面を的確に把握したことにより、生徒の教師への信頼感が高まり、それに伴って生徒間の好ましい人間関係が構築されて、生活満足感の高まりへとつながっているものと考えられます。

グラフは、アセスの6つの因子を統計学的に分析した結果の数値を表しており、「*」印が多いほど有意差が認められることを示しています。

参考:「6領域学校環境適応感尺度『アセス』について

「アセス」は、広島大学大学院等で開発された児童生徒の学校適応感を測定することができる尺度であり、下表の6つの因子から構成されています。

| 因子名 | 把握できる内容 |
|---------|---|
| 生活満足感 | 生活全体に対して、満足感や楽しさを感じている程度で、総合的な適応感を示します。 |
| 教師サポート | 担任(教師)の支援があるとか、認められているなど、担任(教師)との関係が良好であると感じている程度を示します。 |
| 友人サポート | 友だちからの支援があるとか、認められているなど、友人関係が良好だと感じている程度を示します。 |
| 向社会的スキル | 友だちへの援助や友だちとの関係をつくるスキルをもっていると感じている程度を示します。 |
| 非侵害的關係 | 無視やいじわるなど、拒否的・否定的な友だち関係がないと感じている程度を示します。 |
| 学習的適応 | 学習の方法も分かり、意欲も高いなど、学習が良好だと感じている程度を示します。 |

「児童・生徒のための学校環境適応ガイドブック - 学校適応の理論と実際」(石井眞治・井上弥・沖林洋平・栗原慎二・神山貴弥編著 協同出版)から

平成 23 年度における本事業の成果と課題

成果

小・中学校の緊密な連携体制の充実

各指定校区の実態に応じ、既存の組織を活用したり、コーディネーターを位置付けたりするなど、小・中連携の体制整備が進められた。

小中学校の教員が、部会に分かれて協議を行ったり、有識者を招いた研修会を小・中学校合同で開催したりするなど、中1ギャップ問題とその対応について理解を深める体制整備が進められた。

アセスの結果を取り入れた引継ぎシートの作成など、生徒の具体的な支援につながる引継ぎの方法が工夫された。

中学校教員が小学校へ出向き、小学校外国語活動や算数等の出前授業を行う体制整備が進められた。

児童生徒の人間関係を築く力の育成

ピアサポートやグループエンカウンター等の人間関係を築く教育活動が教育課程に位置付けられ、計画的に実施された。

各指定校区の実態に応じ、好ましい人間関係を築く多様な児童生徒の交流活動が工夫された。

児童生徒の学校生活への適応状況のきめ細かな把握と適切な支援

アセスを活用して、継続的に児童生徒の適応感をきめ細かに把握し、適切な支援を行ったことにより、いじめや不登校の解消率が上昇している。

アセスの結果から、児童生徒の教師への信頼感が高まったり、子ども同士の間人間関係が構築されたりしている状況がうかがえ、学校生活への適応感が高まってきている。

課題

小・中学校の緊密な連携体制の充実

構築した小中連携の体制について、保護者や地域への周知を図り、地域と一体となった取組を進める必要がある。

児童生徒の人間関係を築く力の育成

好ましい人間関係を築く力を育成する教育活動の一層の工夫改善を図るとともに、教育課程への位置付けを更に明確にする必要がある。

児童生徒の学校生活への適応状況のきめ細かな把握と適切な支援

好ましい人間関係を築くためのコミュニケーションに関する資質や能力を的確に把握して、個に応じた指導を工夫していく必要がある。

いじめや不登校等の解消はもとより、未然防止に向けて到達目標を明確にし、その実現に向けた具体的な取組を進める必要がある。